

フルートのチェック

アッ！音が変かな！？と思ったらすぐに修理の予約を！！

フルートは多くの部品が溶接、ハンダ付け、ネジ、ピンの組み立てで造られています。音色、響き、反応が悪い時はいくつかの原因が考えられます。各パーツ別にチェックをしてみてください。

■接続部

フルートは頭部管、本管(胴部管)、足部管の各管を接続して一本の共鳴管に組み立てます。各接続部に磨耗や変形があると管の振動が十分に伝わらず、音の響きに支障があります(音を支えるために余分な息と力を要します)。

■頭部管

大切な歌口(リッププレート)の表面や、エッジ部に付いた傷は息の流れを悪くします。そのため、息のスピードが上がりにくくなります。

歌口内のチムニー(煙突部)の汚れ、サビも息の流れを悪くします。

上部のヘッドクラウンとヘッドコルクは、管の響きに重要な影響があります。コルクの弾力が無くなるとクラウンも動きやすく、管振動が吸収され、特に高音域の抜けが悪くなります。又コルク栓を歌口の中心より17mm.の位置に合わせても動いてしまいます。

■本管・足部管

トーンホール表面の汚れ、サビ、傷、変形はタンポとの密着性を悪くします。管内の空気圧が上がらず、反応(立ち上がり)が悪く、音のコントロールに影響します。タンポの消耗も早くなります。

キーメカニズムは、シャフト(細い管)の継ぎ口から汗や水分が入ると、キーオイルの劣化やサビのため反応(動き)が悪くなります。クローズ・キー(E♭、G#、トリル)はキーの戻りが悪くなるとタンポの押さえが弱くなり、管内の圧力が上がらなくなります。

キーポスト間の遊び(ガタつき)、キー連絡(バランス)の狂い、キーカップの設定角度の狂い等は、タンポとトーンホールの間で息が漏れ、管内の圧力が上がらなくなります。

キーの遊びは、他の連絡キーに負担がかかり、タンポ、コルク、フェルト等の変形と消耗を早めます。

■ハンダ付け部

ハンダ付けは、溶接(ロウ付け)より強度がなく、強い衝撃により剥がれると、そこで管の振動が吸収され管の響きに影響が出ます。

【ハンダ使用箇所】

歌口・接続管・キーポスト台座・補強リング

※オールハンドメイド仕様では、トーンホールもハンダ付けです。

■タンポ

タンポは台紙とフェルトが薄い皮(腸の皮)で二重に包まれています。

水分の吸収と放出をくり返すうちに、フェルトと皮の弾力が少なくなり、トーンホールとのフィットが悪くなります。

また、過度の水分や長時間の使用で表面が変形し、トーンホールの汚れやサビで変色、消耗してくると、空気圧が上がらず反応が悪くなり音のコントロールに影響します。

フルートの扱い方、手入れの仕方、使用期間によりフルートの健康状態に差が出てきます。6ヵ月から1年の定期点検と調整をおすすめします。異常のあるときは、他に影響が出る前に修理、調整を受けて下さい。

ジュン・ミュージック

住所／TEL: 東京都中野区上高田1丁目35-10 / 03-6804-7745